

(15) 小倉・黒崎について

① 小倉都心のにぎわいに対する印象にみる満足感

問 18 北九州市では、小倉中心部を都心、黒崎地区を副都心と位置づけ、それぞれの個性を活かし、市内外から多くの人が集まる魅力あるまちづくりを進めています。そこで、おたずねします。

あなたは、小倉都心に、にぎわいを感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても感じている	76	5.7
2 ある程度感じている	531	40.2
3 どちらとも言えない	217	16.4
4 あまり感じていない	371	28.1
5 ほとんど感じていない	107	8.1
無回答	20	1.5

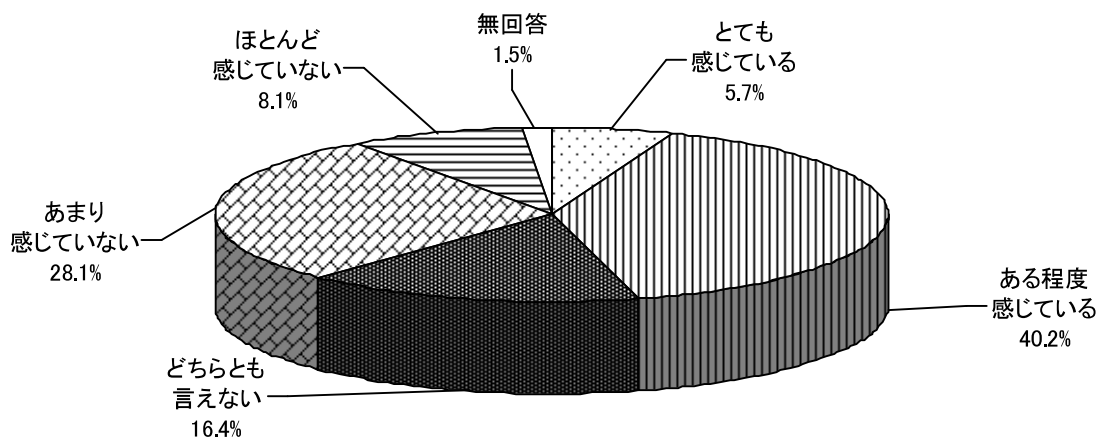
◇ 小倉都心のにぎわいに対する印象にみる満足感は、

・肯定層 45.9%

(「とても感じている」5.7%+「ある程度感じている」40.2%)

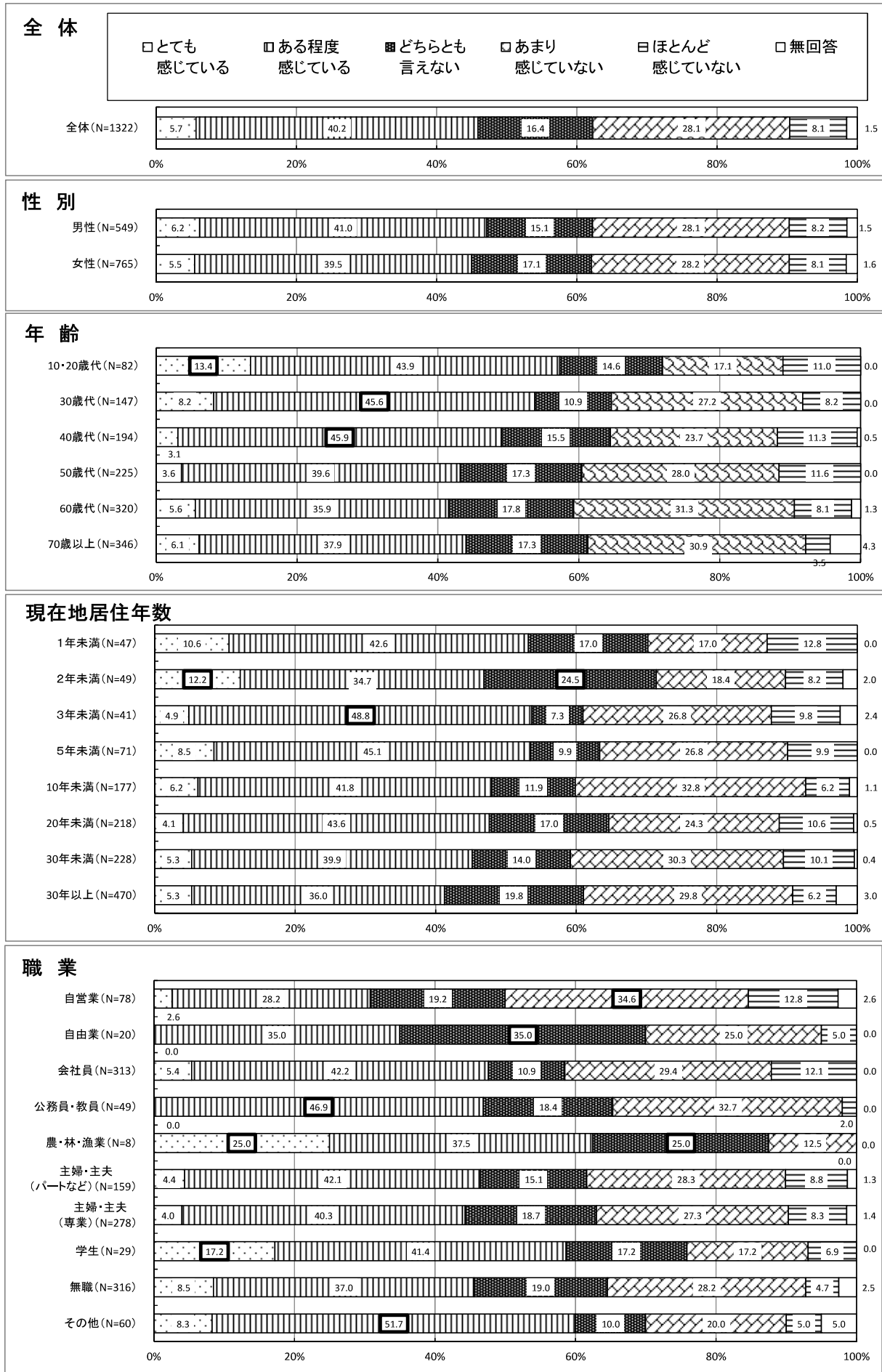
・否定層 36.2%

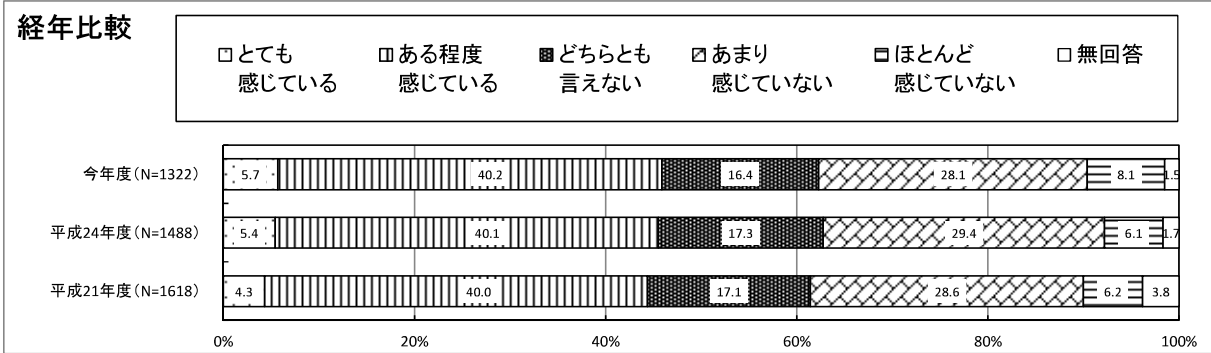
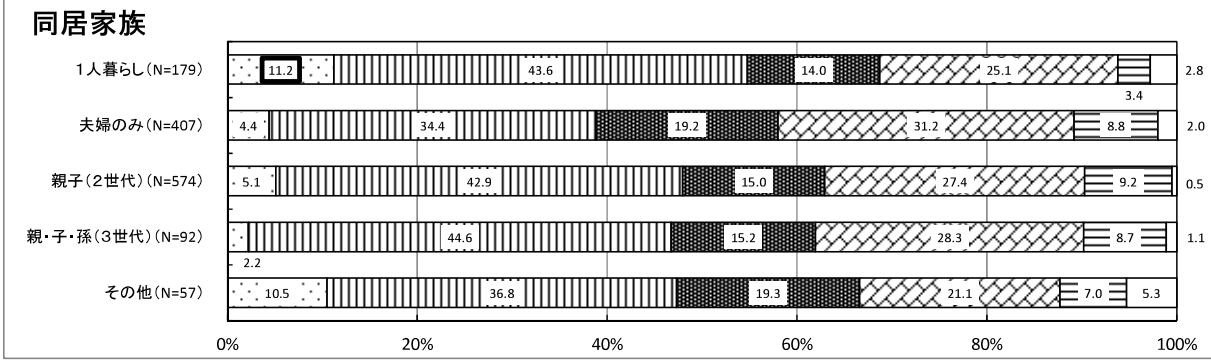
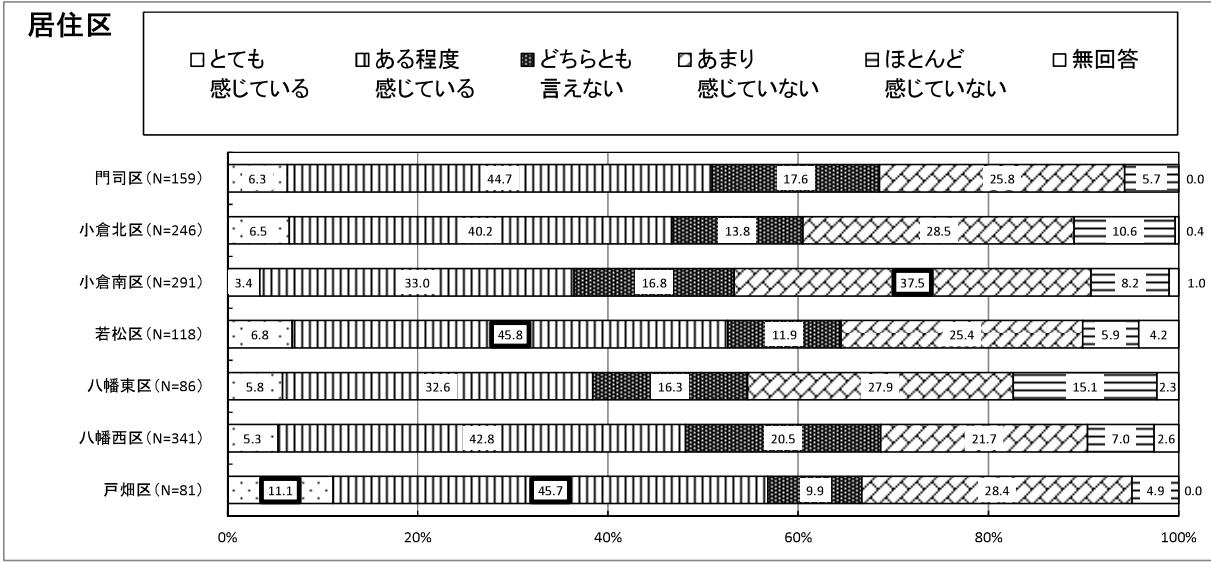
(「あまり感じていない」28.1%+「ほとんど感じていない」8.1%)



とても感じている   
 ある程度感じている   
 どちらとも言えない   
 あまり感じていない   
 ほとんど感じていない   
 無回答

① 小倉都心のにぎわいに対する印象にみる満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

## 小倉都心のにぎわいに対する印象にみる満足感

### 【全体的傾向】

小倉都心のにぎわいに対する印象にみる満足感は、「とても感じている」は 5.7%、「ある程度感じている」は 40.2%、合計すると、肯定層は 45.9%である。一方、「あまり感じていない」は 28.1%、「ほとんど感じていない」は 8.1%、合計すると、否定層は 36.2%である。

肯定層（45.9%）が否定層（36.2%）を 9.7 ポイント上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、肯定層は 10・20 歳代で 57.3%と最も高く、次いで 30 歳代で 53.8%と続き、これらの年齢層で 5 割を上回り、概ね年齢が低い層で高い傾向がみられた。
- 居住区別にみると、肯定層は、門司区 (51.0%)、若松区 (52.6%) 及び戸畑区 (56.8%) の 3 区で 5 割を上回った。一方、小倉南区は 36.4%、八幡東区では 38.4%と比較的低くなっており、これらの区では否定層が肯定層を上回っている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成 21 年度及び 24 年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成 21 年度 44.3%→平成 24 年度 45.5%→今年度 45.9%と、ほぼ横這いで推移している。否定層は、平成 21 年度 34.8%→平成 24 年度 35.5%→今年度 36.2%と、こちらもほぼ横這いではあるが高くなっている。

② 黒崎副都心のにぎわいに対する印象にみる満足感

問 19 あなたは、黒崎副都心に、にぎわいを感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても感じている	9	0.7
2 ある程度感じている	65	4.9
3 どちらとも言えない	224	16.9
4 あまり感じていない	473	35.8
5 ほとんど感じていない	512	38.7
無回答	39	3.0

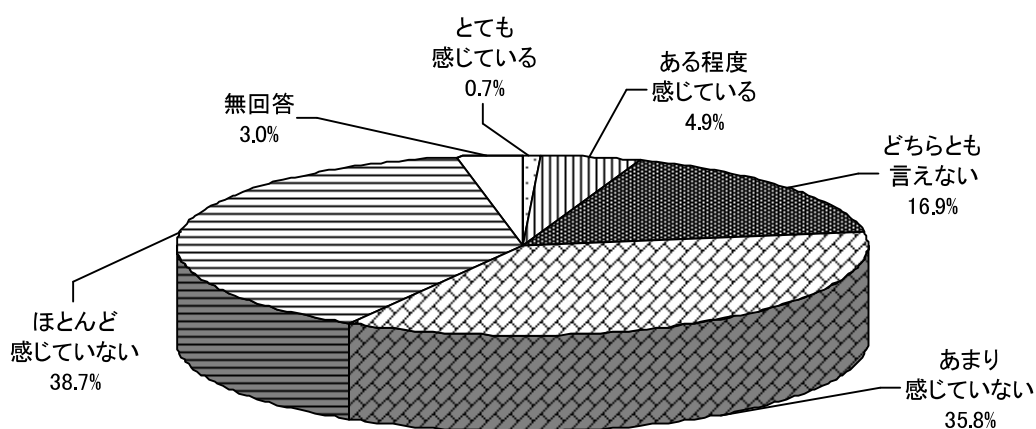
◇ 黒崎副都心のにぎわいに対する印象にみる満足感は、

・肯定層 5.6%

(「とても感じている」0.7%+「ある程度感じている」4.9%)

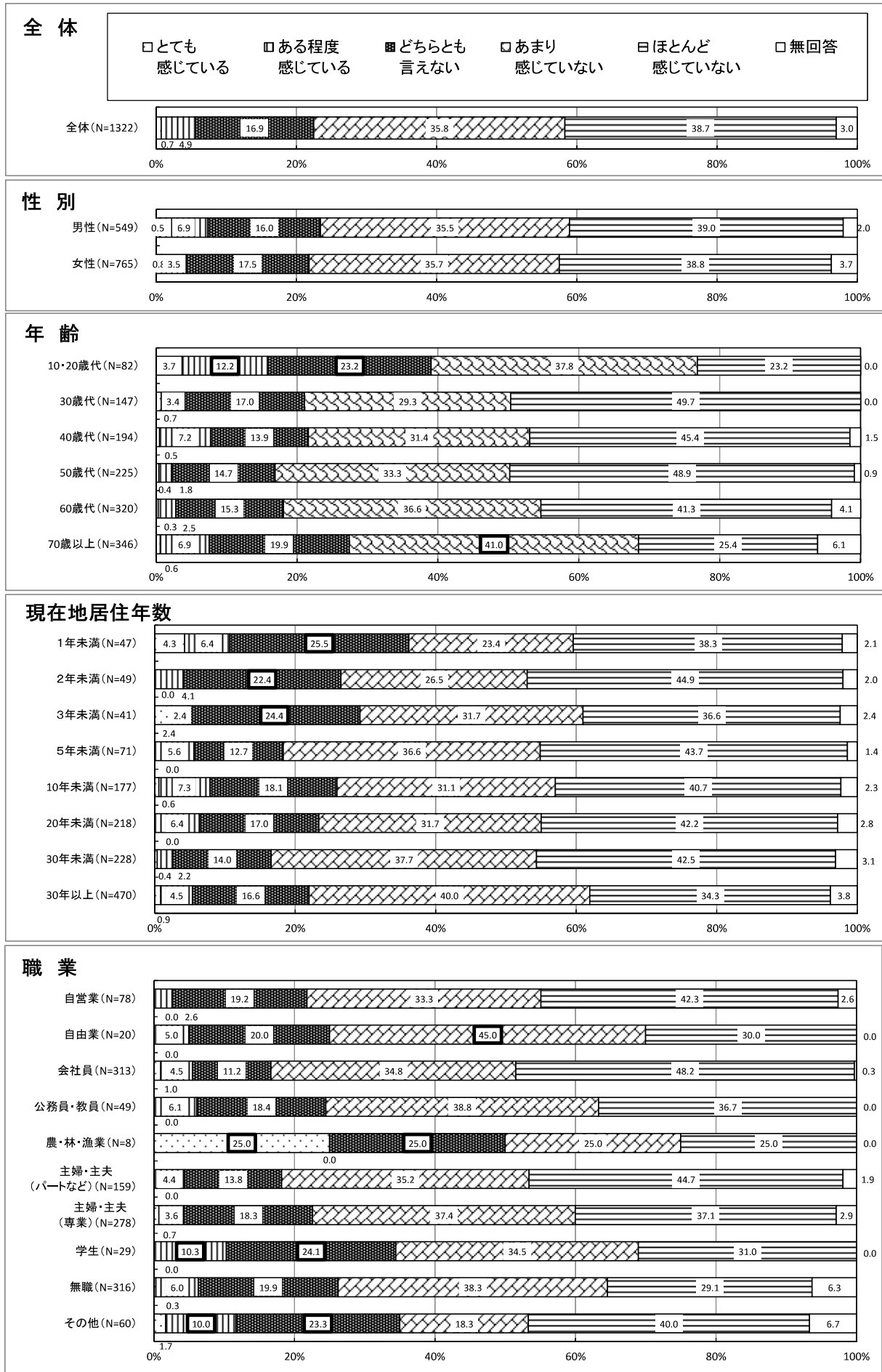
・否定層 74.5%

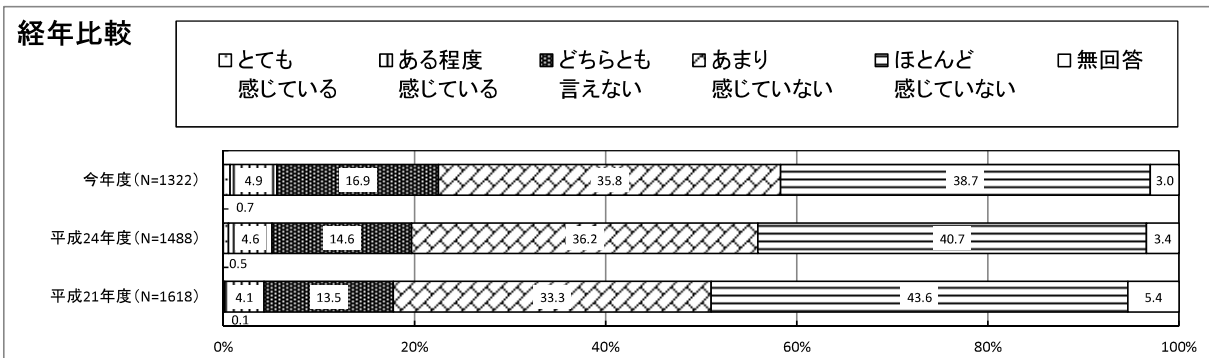
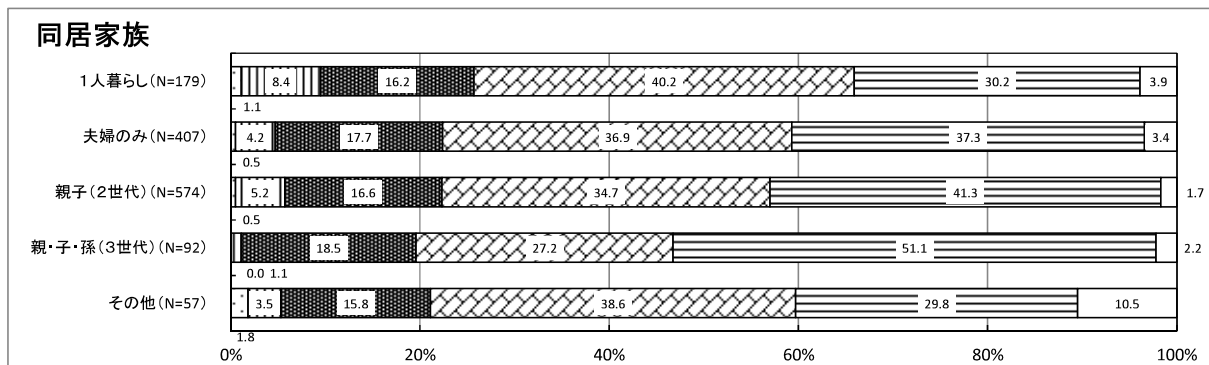
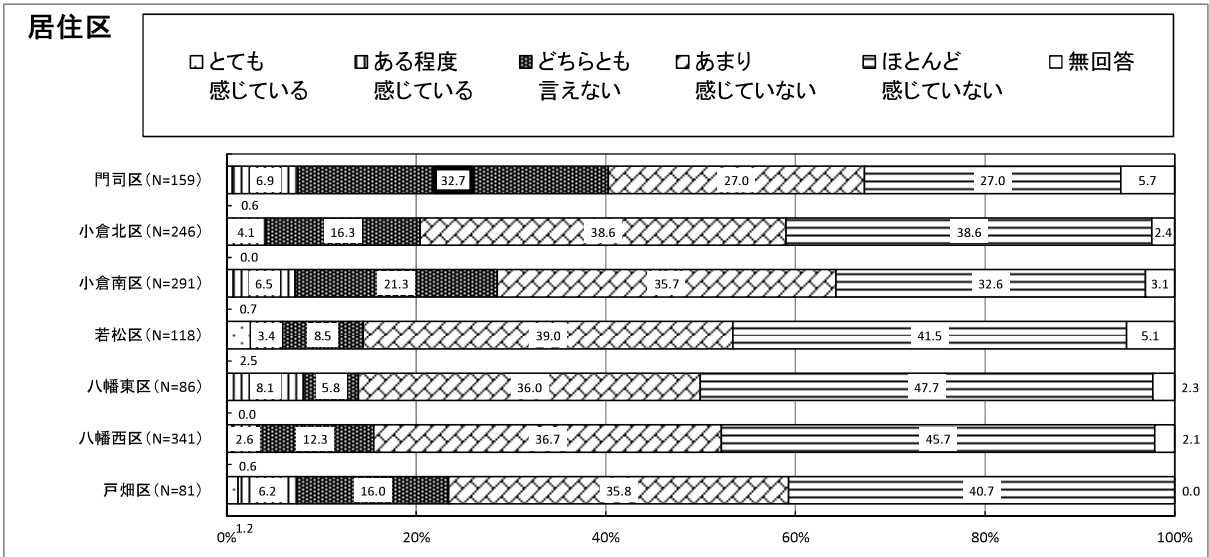
(「あまり感じていない」35.8%+「ほとんど感じていない」38.7%)



とても感じている   
 ある程度感じている   
 どちらとも言えない   
 あまり感じていない   
 ほとんど感じていない   
 無回答

② 黒崎副都心のにぎわいに対する印象にみる満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

## 黒崎副都心のにぎわいに対する印象にみる満足感

### 【全体的傾向】

黒崎副都心のにぎわいに対する印象にみる満足感は、「とても感じている」は 0.7%、「ある程度感じている」は 4.9%、合計すると、肯定層は 5.6%である。一方、「あまり感じていない」は 35.8%、「ほとんど感じていない」は 38.7%、合計すると、否定層は 74.5%である。

否定層（74.5%）が肯定層（5.6%）を 68.9 ポイントと大きく上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、否定層の中でも「ほとんど感じていない」は、30歳代（49.7%）で最も高く、50歳代（48.9%）、40歳代（45.4%）、60歳代（41.3%）の順で続き、これらの層で4割を上回っている。
- 居住区別にみると、否定層の中でも「ほとんど感じていない」は、八幡東区（47.7%）で最も高く、八幡西区（45.7%）、若松区（41.5%）、戸畑区（40.7%）の順で続き、これらの地区で4割を上回っている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成 21 年度及び 24 年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成 21 年度 4.2%→平成 24 年度 5.1%→今年度 5.6%と、ほぼ横這いで推移している。否定層は、平成 21 年度 76.9%→平成 24 年度 76.9%→今年度 74.5%と、こちらもほぼ横這いで推移している。



(16) 交通機能について

① 市内の車移動の利便性に対する満足感

問 20 北九州市では、主要な幹線道路の整備や交通渋滞の解消、公共交通ネットワークの強化などを進めています。そこで、おたずねします。

あなたは、北九州市内の車（自家用車、タクシーなど）での移動は便利であると感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数（人）	割合（％）
1 とても感じている	132	10.0
2 ある程度感じている	672	50.8
3 どちらとも言えない	220	16.6
4 あまり感じていない	186	14.1
5 ほとんど感じていない	46	3.5
無回答	66	5.0

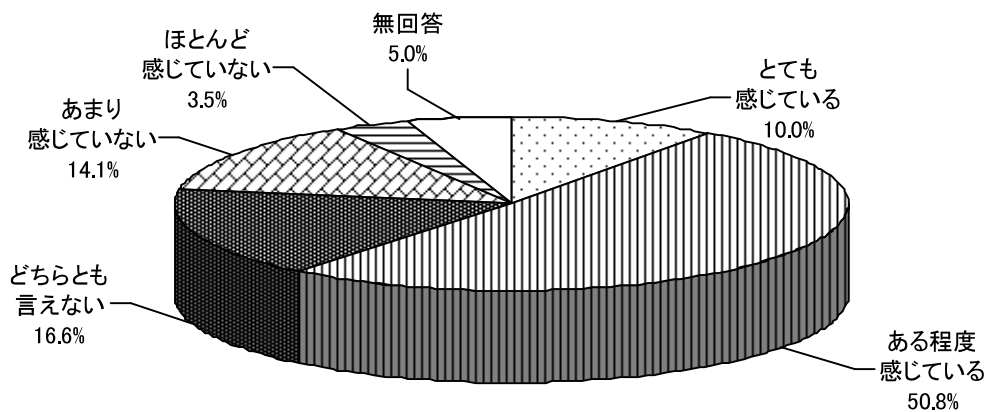
◇ 市内の車移動の利便性に対する、市民の満足感は、

・肯定層 60.8%

（「とても感じている」10.0%＋「ある程度感じている」50.8%）

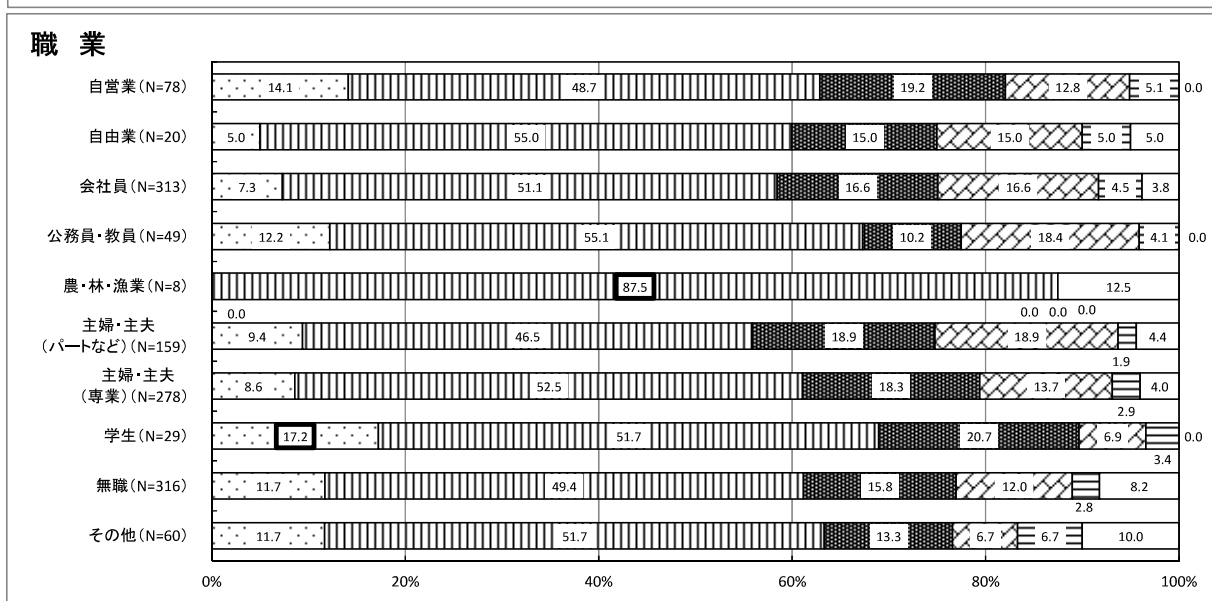
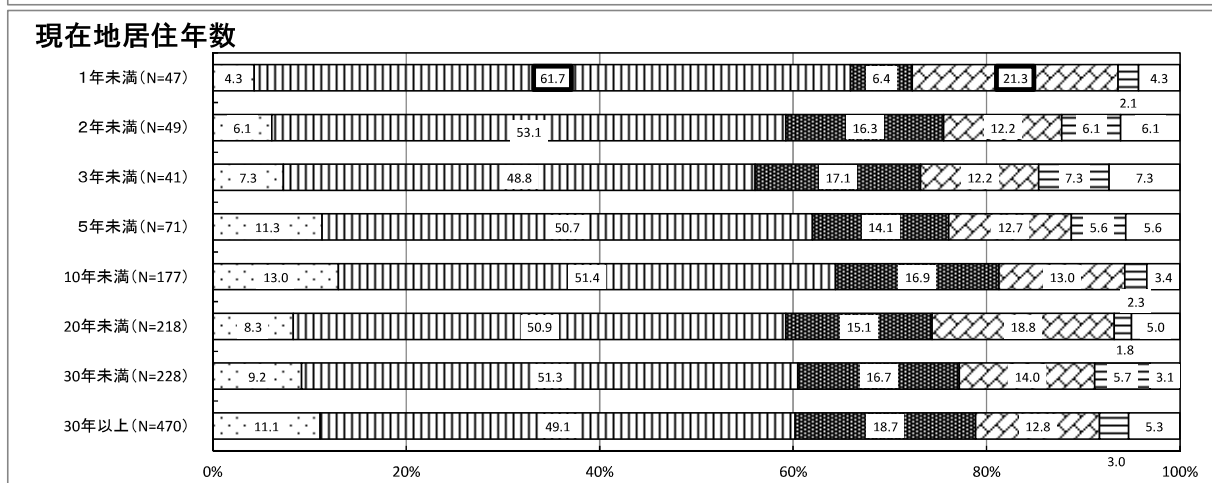
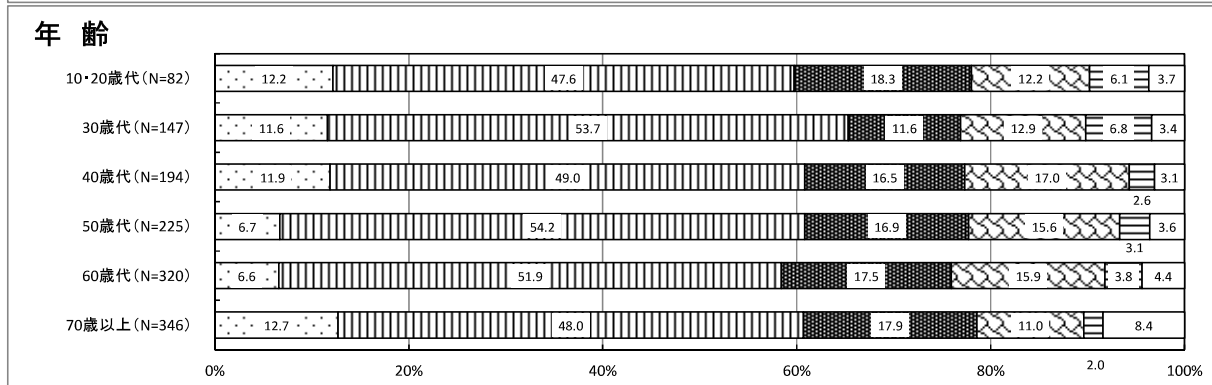
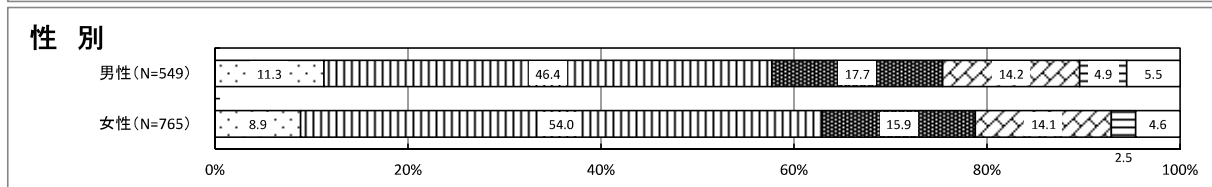
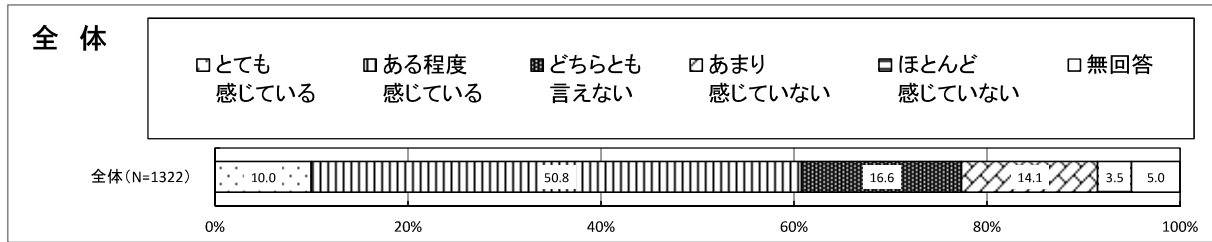
・否定層 17.6%

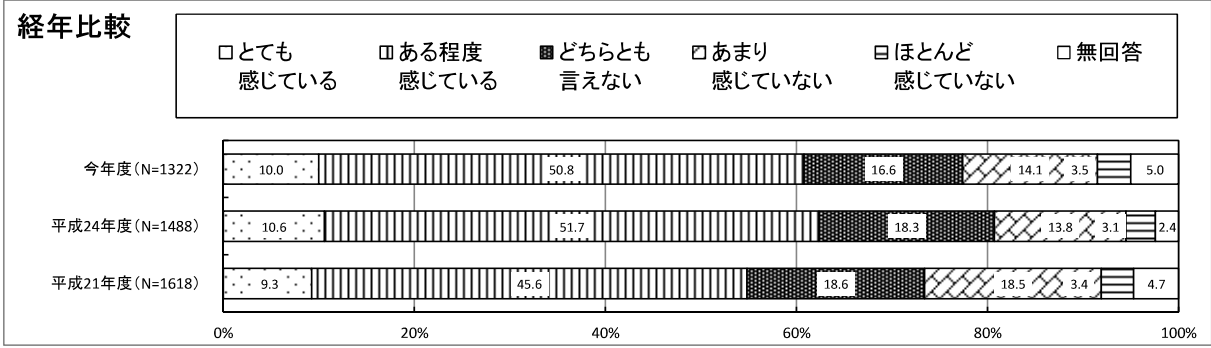
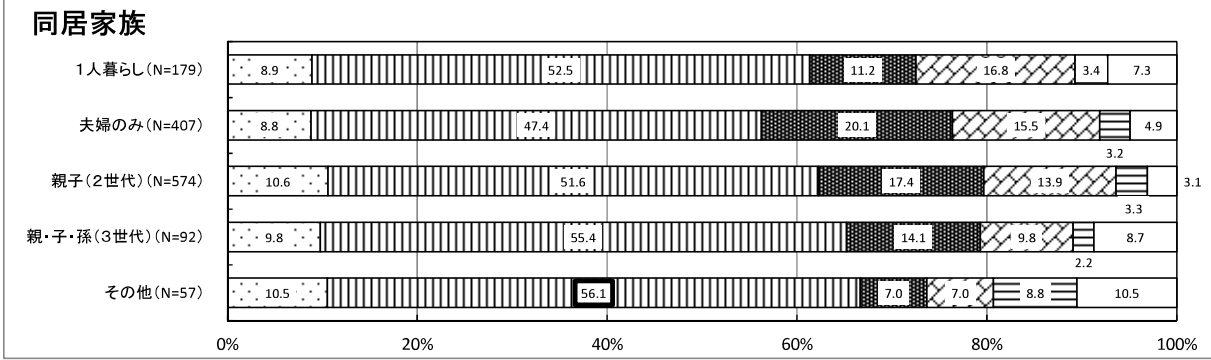
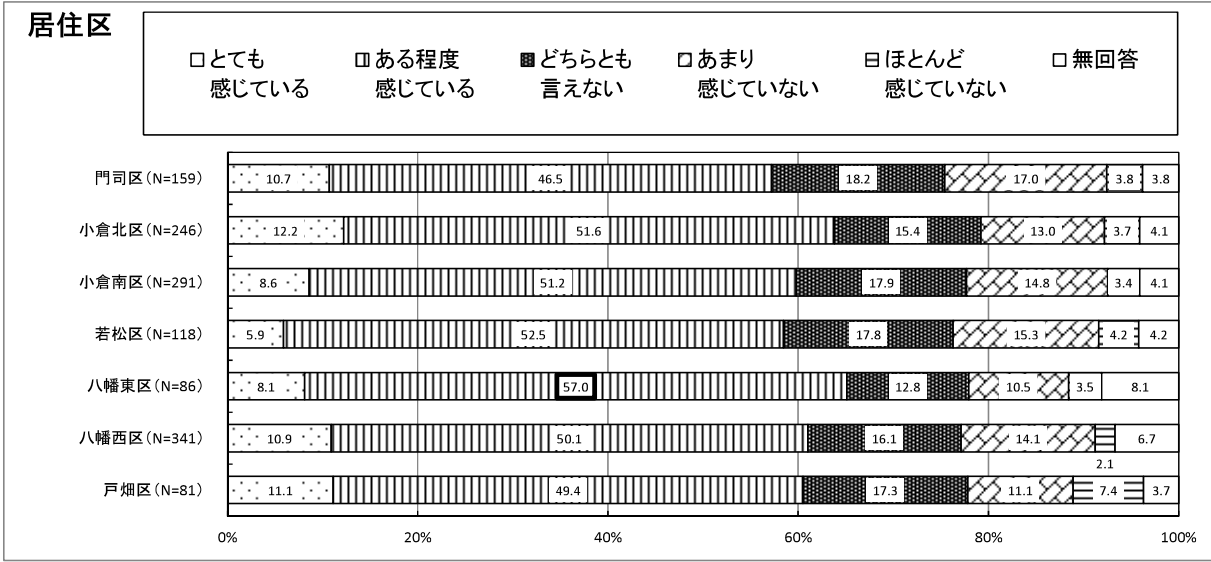
（「あまり感じていない」14.1%＋「ほとんど感じていない」3.5%）



□ とても感じている	□ ある程度感じている	■ どちらとも言えない	▨ あまり感じていない	▤ ほとんど感じていない	□ 無回答
------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------

① 市内の車移動の利便性に対する満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

② 市内での車移動の利便性が感じられない理由

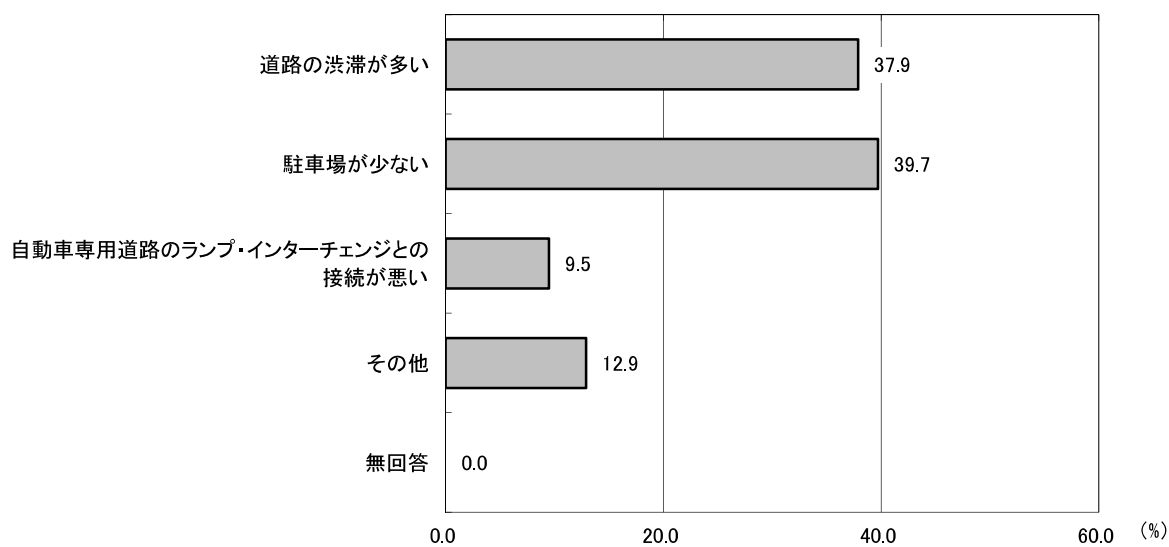
副問 20-1 (4もしくは5と選んだ)理由について、下記から主なものを1つまで選んで下さい。

N : 232 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 道路の渋滞が多い	88	37.9
2 駐車場が少ない	92	39.7
3 自動車専用道路のランプ・インターチェンジとの接続が悪い	22	9.5
4 その他	30	12.9
無回答	0	0.0

◇ 市内の車移動の利便性が感じられない主な理由は、

- 1位 「駐車場が少ない」(39.7%)
- 2位 「道路の渋滞が多い」(37.9%)
- 3位 「その他」(12.9%)



② 市内での車移動の利便性が感じられない理由

		サンプル数	道路の渋滞が多い	駐車場が少ない	自動車専用道路のランプ・インターチェンジとの接続が悪い	その他	無回答
全体		232	37.9	39.7	9.5	12.9	0.0
性別	男性	105	<b>42.9</b>	25.7	<b>16.2</b>	15.2	0.0
	女性	127	33.9	<b>51.2</b>	3.9	11.0	0.0
年齢別	10・20歳代	15	<b>46.7</b>	33.3	6.7	13.3	0.0
	30歳代	29	<b>48.3</b>	31.0	10.3	10.3	0.0
	40歳代	38	<b>44.7</b>	31.6	7.9	15.8	0.0
	50歳代	42	<b>47.6</b>	21.4	11.9	19.0	0.0
	60歳代	63	19.0	<b>57.1</b>	12.7	11.1	0.0
	70歳以上	45	40.0	<b>46.7</b>	4.4	8.9	0.0
現在地居住年数別	1年未満	11	<b>45.5</b>	18.2	<b>18.2</b>	18.2	0.0
	2年未満	9	<b>44.4</b>	11.1	<b>22.2</b>	22.2	0.0
	3年未満	8	<b>75.0</b>	0.0	0.0	25.0	0.0
	5年未満	13	<b>53.8</b>	30.8	7.7	7.7	0.0
	10年未満	27	25.9	<b>51.9</b>	11.1	11.1	0.0
	20年未満	45	35.6	31.1	11.1	22.2	0.0
	30年未満	45	35.6	<b>53.3</b>	2.2	8.9	0.0
	30年以上	74	36.5	44.6	10.8	8.1	0.0
職業別	自営業	14	<b>50.0</b>	42.9	7.1	0.0	0.0
	自由業	4	<b>50.0</b>	25.0	0.0	25.0	0.0
	会社員	66	<b>43.9</b>	28.8	<b>16.7</b>	10.6	0.0
	公務員・教員	11	36.4	9.1	<b>27.3</b>	27.3	0.0
	農・林・漁業	0	-	-	-	-	-
	主婦・主夫(パートなど)	33	39.4	<b>45.5</b>	3.0	12.1	0.0
	主婦・主夫(専業)	46	19.6	<b>63.0</b>	4.3	13.0	0.0
	学生	3	<b>66.7</b>	0.0	0.0	33.3	0.0
	無職	47	38.3	42.6	6.4	12.8	0.0
	その他	8	<b>50.0</b>	12.5	12.5	25.0	0.0
居住区別	門司区	33	21.2	<b>48.5</b>	<b>18.2</b>	12.1	0.0
	小倉北区	41	39.0	36.6	7.3	17.1	0.0
	小倉南区	53	39.6	<b>47.2</b>	3.8	9.4	0.0
	若松区	23	39.1	26.1	<b>17.4</b>	17.4	0.0
	八幡東区	12	33.3	<b>50.0</b>	0.0	16.7	0.0
	八幡西区	55	<b>43.6</b>	36.4	7.3	12.7	0.0
	戸畑区	15	<b>46.7</b>	26.7	<b>20.0</b>	6.7	0.0
	同居家族別	1人暮らし	36	30.6	36.1	8.3	25.0
夫婦のみ	76	21.1	<b>56.6</b>	9.2	13.2	0.0	
親子(2世代)	99	<b>49.5</b>	32.3	10.1	8.1	0.0	
親・子・孫(3世代)	11	36.4	36.4	<b>18.2</b>	9.1	0.0	
その他	9	<b>88.9</b>	0.0	0.0	11.1	0.0	

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

## 市内の車移動の利便性に対する満足感

### 【全体的傾向】

北九州市内の車（自家用車、タクシーなど）移動の利便性に対する満足感をみると、「とても感じている」は10.0%、「ある程度感じている」は50.8%、合計すると、肯定層は60.8%である。一方、「あまり感じていない」は14.1%、「ほとんど感じていない」は3.5%、合計すると、否定層は17.6%である。

肯定層（60.8%）が否定層（17.6%）を43.2ポイント上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 居住区別にみると、肯定層は八幡東区（65.1%）で最も高く、門司区（57.2%）で最も低くなっている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度（54.9%）に対し、平成24年度（62.3%）は高くなったが、今年度（60.8%）は低くなった。否定層は、平成21年度（21.9%）に対し、平成24年度（16.9%）は低くなり、今年度（17.6%）はほぼ横這いであった。

## 市内での車移動の利便性が感じられない理由

### 【全体的傾向】

市内での車移動の利便性が感じられない主な理由は、「駐車場が少ない」（39.7%）が最も高く、次いで「道路の渋滞が多い」（37.9%）、「その他」（12.9%）の順となっている。

### 【属性別にみた傾向】

- 性別にみると、「駐車場が少ない」は女性（51.2%）が男性（25.7%）を25.5ポイント上回っている。一方、「道路の渋滞が多い」は男性（42.9%）が女性（33.9%）を9.0ポイント上回っている。
- 年齢別にみると、「駐車場が少ない」は60歳代（57.1%）で最も高く、次いで70歳以上（46.7%）と、年齢が高い層を中心に高くなっている。一方、「道路の渋滞が多い」は30歳代（48.3%）で最も高く、次いで50歳代（47.6%）、10・20歳代（46.7%）と続き、年齢が低い層を中心に高くなっている。
- 居住区別にみると、「駐車場が少ない」は八幡東区（50.0%）で特に高く、5割を占めている。
- 同居家族別にみると、「駐車場が少ない」は夫婦のみ（56.6%）で特に高く、5割を上回っている。

### 【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ・ 信号が多い。
- ・ 道路が狭い。
- ・ 駐車料金やタクシー料金が安い。

③ 市内での公共交通機関の利便性に対する印象

問 21 あなたは、北九州市内の電車やバス、モノレールといった公共交通機関での移動は便利であると感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても感じている	172	13.0
2 ある程度感じている	558	42.2
3 どちらとも言えない	225	17.0
4 あまり感じていない	224	16.9
5 ほとんど感じていない	67	5.1
無回答	76	5.7

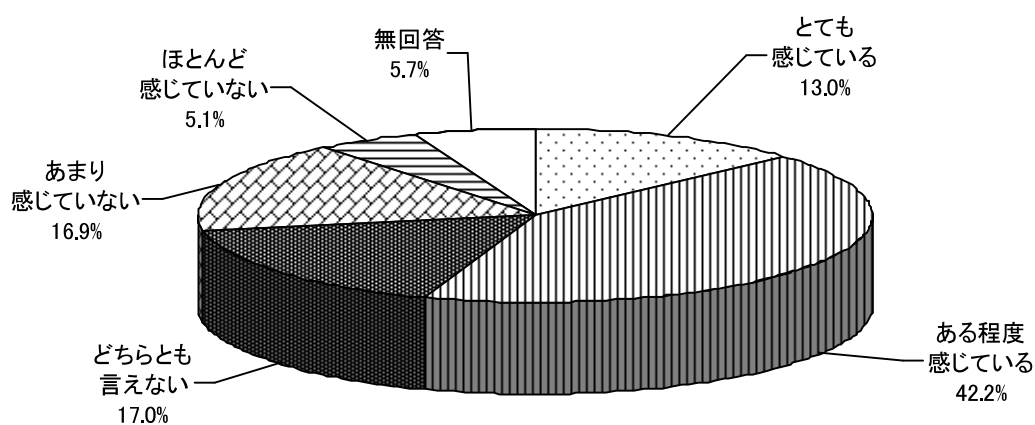
◇ 市内での公共交通機関の利便性に対する、市民の満足感は、

・肯定層 55.2%

(「とても感じている」13.0%+「ある程度感じている」42.2%)

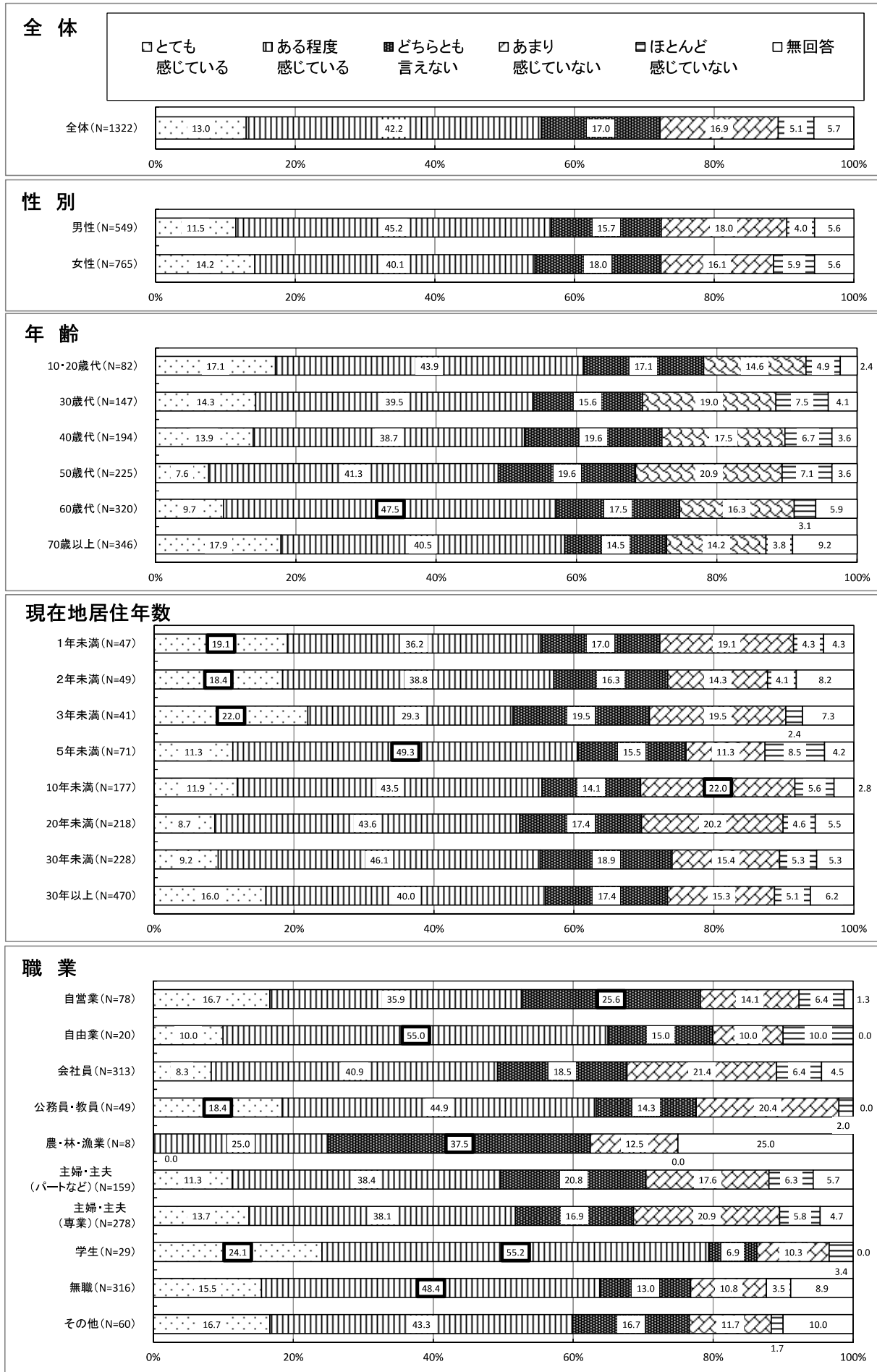
・否定層 22.0%

(「あまり感じていない」16.9%+「ほとんど感じていない」5.1%)

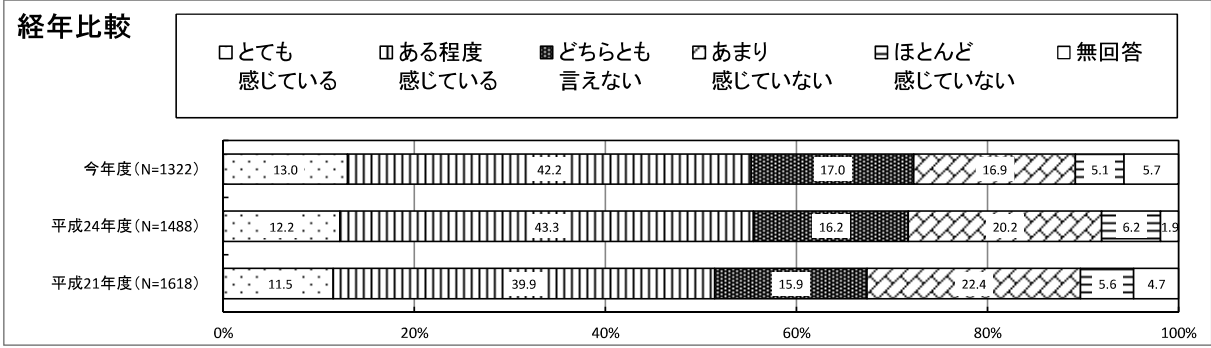
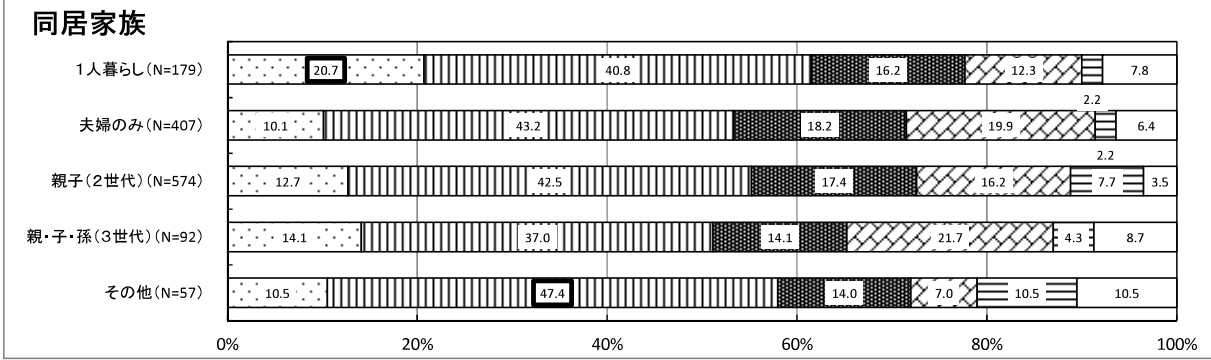
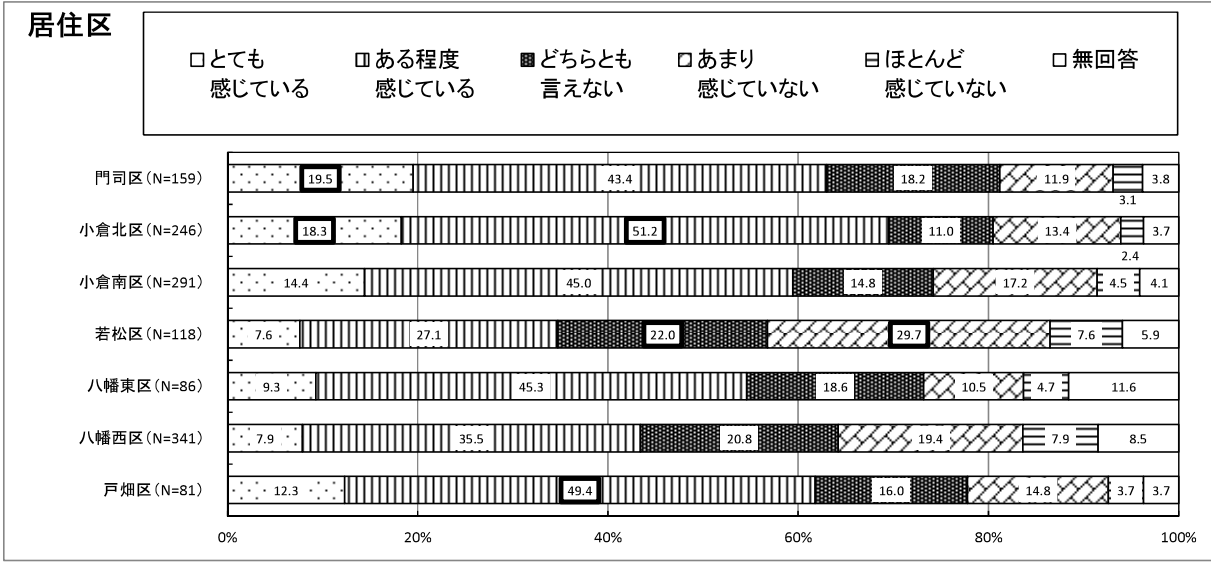


とても感じている   
 ある程度感じている   
 どちらとも言えない   
 あまり感じていない   
 ほとんど感じていない   
 無回答

### ③ 市内での公共交通機関の利便性に対する印象







(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

④ 市内の公共交通機関の利便性が感じられない理由

副問 21-1 (4もしくは5と選んだ)理由について、下記から主なものを2つまで選んで下さい。

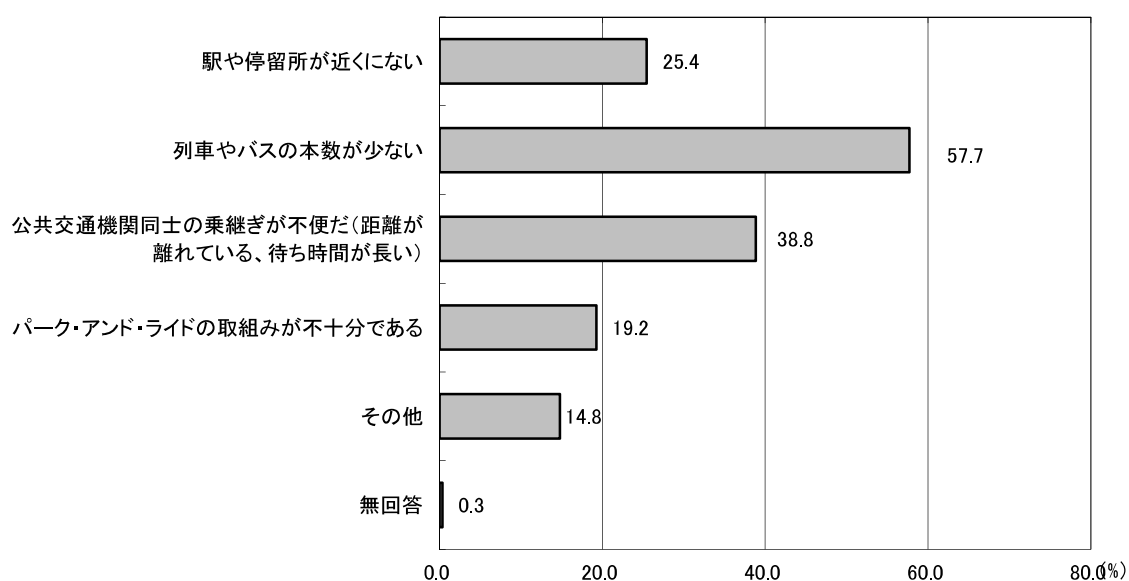
N : 291 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 駅や停留所が近くにない	74	25.4
2 列車やバスの本数が少ない	168	57.7
3 公共交通機関同士の乗継ぎが不便だ(距離が離れている、待ち時間が長い)	113	38.8
4 パーク・アンド・ライド※の取組みが不十分である	56	19.2
5 その他	43	14.8
無回答	1	0.3

※パーク・アンド・ライド…マイカーと公共交通機関を組み合わせた交通機関の利用形態。例えば自宅からはマイカーを利用し、最寄り駅の近隣に駐車し、そこから都心部までは電車を利用するといったもの。

◇ 市内の公共交通機関の利便性が感じられない主な理由は、

- 1位 「列車やバスの本数が少ない」(57.7%)
- 2位 「公共交通機関同士の乗継ぎが不便だ(距離が離れている、待ち時間が長い)」(38.8%)
- 3位 「駅や停留所が近くにない」(25.4%)



④ 市内の公共交通機関の利便性が感じられない理由

		サンプル数	駅や停留所が近くにない	列車やバスの本数が少ない	公共交通機関同士の乗継ぎが不便だ（距離が離れている、待ち時間が長い）	パーク・アンド・ライド※の取組みが不十分である	その他	無回答
全体		291	25.4	57.7	38.8	19.2	14.8	0.3
性別	男性	121	21.5	61.2	44.6	20.7	14.0	0.0
	女性	168	28.0	55.4	35.1	18.5	15.5	0.6
年齢別	10・20歳代	16	18.8	75.0	31.3	12.5	18.8	0.0
	30歳代	39	25.6	59.0	43.6	7.7	17.9	0.0
	40歳代	47	27.7	63.8	44.7	19.1	12.8	0.0
	50歳代	63	30.2	60.3	31.7	22.2	12.7	0.0
	60歳代	62	24.2	64.5	37.1	19.4	14.5	0.0
	70歳以上	62	21.0	38.7	43.5	25.8	16.1	1.6
現在地居住年数別	1年未満	11	18.2	45.5	45.5	27.3	18.2	0.0
	2年未満	9	33.3	55.6	11.1	11.1	11.1	0.0
	3年未満	9	33.3	66.7	44.4	22.2	0.0	0.0
	5年未満	14	35.7	64.3	50.0	7.1	0.0	0.0
	10年未満	49	12.2	51.0	42.9	18.4	26.5	0.0
	20年未満	54	29.6	70.4	31.5	18.5	14.8	0.0
	30年未満	47	25.5	68.1	29.8	23.4	17.0	0.0
	30年以上	96	27.1	49.0	45.8	19.8	11.5	1.0
職業別	自営業	16	31.3	56.3	43.8	12.5	12.5	0.0
	自由業	4	25.0	50.0	75.0	0.0	25.0	0.0
	会社員	87	31.0	64.4	32.2	20.7	12.6	0.0
	公務員・教員	11	9.1	72.7	36.4	27.3	0.0	0.0
	農・林・漁業	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	主婦・主夫（パートなど）	38	15.8	63.2	44.7	15.8	18.4	0.0
	主婦・主夫（専業）	74	25.7	52.7	33.8	17.6	17.6	1.4
	学生	4	25.0	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	無職	45	26.7	48.9	51.1	22.2	13.3	0.0
	その他	8	12.5	37.5	50.0	50.0	25.0	0.0
居住区別	門司区	24	16.7	66.7	45.8	12.5	12.5	0.0
	小倉北区	39	25.6	48.7	41.0	17.9	15.4	0.0
	小倉南区	63	25.4	65.1	33.3	19.0	17.5	0.0
	若松区	44	11.4	61.4	43.2	22.7	11.4	0.0
	八幡東区	13	30.8	69.2	30.8	15.4	23.1	0.0
	八幡西区	93	34.4	55.9	33.3	21.5	14.0	1.1
	戸畑区	15	20.0	26.7	73.3	13.3	13.3	0.0
同居家族別	1人暮らし	26	30.8	65.4	42.3	15.4	15.4	0.0
	夫婦のみ	90	15.6	56.7	35.6	21.1	16.7	1.1
	親子（2世代）	137	28.5	62.0	41.6	15.3	14.6	0.0
	親・子・孫（3世代）	24	37.5	37.5	41.7	37.5	8.3	0.0
	その他	10	30.0	50.0	20.0	30.0	10.0	0.0

（注）太字 全体よりも5ポイント以上高いもの（「その他」、「無回答」は除く）

## 市内での公共交通機関の利便性に対する満足感

### 【全体的傾向】

北九州市内の電車やバス、モノレールといった公共交通機関での移動に対する、市民の満足感をみると、「とても感じている」は13.0%、「ある程度感じている」は42.2%、合計すると、肯定層は55.2%である。一方、「あまり感じていない」は16.9%、「ほとんど感じていない」は5.1%、合計すると、否定層は22.0%である。

肯定層（55.2%）が否定層（22.0%）を33.2ポイント上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 居住区別にみると、肯定層は小倉北区（69.5%）で最も高く、次いで門司区（62.9%）、戸畑区（61.7%）の順で続き、これらの区は6割を上回っている。一方、若松区は肯定層が34.7%と特に低く、否定層（37.3%）が肯定層をわずかながら上回っている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度（51.4%）に対し平成24年度（55.5%）はわずかながら高くなり、今年度（55.2%）は横這いであった。否定層は、平成21年度28.0%→平成24年度26.4%→今年度22.0%と少しずつではあるが、毎回低くなっている。

## 市内の公共交通機関の利便性が感じられない理由

### 【全体的傾向】

市内の電車やバス、モノレールといった公共交通機関での移動は便利であると感じられない主な理由は、「列車やバスの本数が少ない」（57.7%）が最も高く、次いで「公共交通機関同士の乗継ぎが不便だ（距離が離れている、待ち時間が長い）」（38.8%）、「駅や停留所が近くにない」（25.4%）の順となっている。

### 【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、20歳代では「列車やバスの本数が少ない」が75.0%と特に高くなっている。
- 現住地居住年数別にみると、「列車やバスの本数が少ない」は20年未満で70.4%と最も高く、30年未満（68.1%）、3年未満（66.7%）の順になっており、概ね居住歴の長い層で高くなっていた。
- 居住区別にみると、「公共交通機関同士の乗継ぎが不便だ（距離が離れている、待ち時間が長い）」は、戸畑区で73.3%と、他の区に比べて突出して高くなっている。

### 【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ・ モノレールの延長
- ・ 夕方交通渋滞のためバスが定刻通りに来ない。
- ・ 区により交通機関に差がある。